

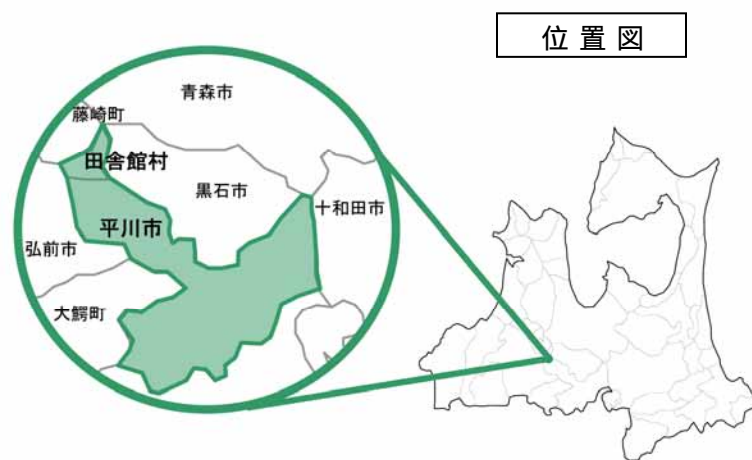
構想対象市町村の組合せ（平川市・田舎館村）について

[ 地域の現況 ]

地理的状況

両地域は、津軽平野の南部、圏域の中心都市である弘前市と黒石市の間に位置し、平川市の東・南部は、十和田市と秋田県に接している。

地勢は、津軽平野の肥沃な土壤に恵まれ、平坦地は水田地帯、標高 20～300m の丘陵地は水稻と、りんごの複合経営地帯として活用され、山間地の大部分は国有林となっている。



人口動向

平成 12 年と平成 17 年の国勢調査結果を比較すると、平川市で 3.1%、田舎館村で 3.3%の減少率となっており、平成 42 年までの将来推計によると今後とも人口減少や少子高齢化の進展が見込まれる。

(人口・面積・人口密度・世帯数)

(単位: 人, m<sup>2</sup>, 人/m<sup>2</sup>)

	人口 (H17 国調速報)	面積 (H12 国調)	人口密度 (H12 国調)	世帯数 (H12 国調)
平川市	35,338	345.81	105.4	9,826
田舎館村	8,541	22.31	396.0	2,343
計	43,879	368.12	123.0	12,169

(人口及び少子高齢化の動向及び今後の見通し)

(単位: 人, %)

	人口の推移			高齢化率の推移		
	H12(2000)	H27(2015)	H42(2030)	H12(2000)	H27(2015)	H42(2030)
平川市	36,454	33,535	29,057	22.5	28.7	33.5
田舎館村	8,835	7,934	6,865	23.1	31.0	35.9
計	45,289	41,469	35,922	22.6	29.1	33.9

## 産業の状況

両地域ともに、農業が就業者構成比の最も高い割合を占めており、地域経済に与える影響も高いことから、基幹産業として位置付けられている。

主要作物は、平坦地における水稲と野菜、台地でのりんごと水稲の複合栽培、高冷地の野菜などとなっている。

(産業別就業者数)

(単位：人、%)

	平川市 (H12 国調)			田舎館村 (H12 国調)			
	産業	就業者数	構成比	産業	就業者数	構成比	
第1次	-	5,202	26.8	-	1,131	24.0	
第2次	-	5,378	27.8	-	1,423	30.2	
第3次	-	8,791	45.4	-	2,164	45.8	
計	-	19,371	-	-	4,718	-	
主な産業	1位	農業	5,107	26.4	農業	1,124	23.8
	2位	サービス業	3,774	19.5	サービス業	1,019	21.6
	3位	卸売・小売業	3,259	16.8	製造業	855	18.1
	4位	製造業	2,836	14.6	卸売・小売業	668	14.2
	5位	建設業	2,515	13.0	建設業	562	11.9

## 交通の状況

両地域は、車で約 20 分の距離にあり、公共交通機関として、弘南鉄道黒石線が田舎館駅と平賀駅間を 1 日 28 往復 (約 10 分) 運行している。隣接する弘前市へも両地域から車で約 20 分の距離にある。

田舎館村は、弘前地域と西北五地域を結ぶ J R 五能線の要衝となっており、平川市は、弘前市から十和田湖へ向かう観光ルートとなっている。



## 生活圏の状況

通勤、通学、買物、医療等の生活圏域は、総じて弘前市や黒石市との結びつきが強いが、道路網や公共交通機関が発達していること等から、集落単位においてはそれぞれ近接する市町との結びつきが強い地域もある。

## 広域行政の状況

平川市及び田舎館村ともに、上水道は津軽広域水道企業団（碓ヶ関地域は久吉ダム水道企業団）、介護保険認定は津軽広域連合、ごみとし尿の処理は黒石地区清掃施設組合（平賀地域・碓ヶ関地域は弘前地区環境整備事務組合）、障害福祉（知的障害者施設）は南黒地方福祉事務組合でそれぞれ共同処理を行っているが、消防については、平川市が単独（碓ヶ関地域は弘前地区消防事務組合）、田舎館村が黒石地区消防事務組合と異なる。

## 各種団体の状況

農協合併により「津軽みなみJA」（旧津軽平賀JA、旧田舎館村JAが合併）が誕生（H16.7.1）している。

## 【旧法下での合併協議の状況】

津軽南地域（弘前市、黒石市、岩木町、相馬村、西目屋村、藤崎町、大鰐町、尾上町、平賀町、常盤村、碓ヶ関村、浪岡町、板柳町及び田舎館村）の14市町村による「津軽南地域市町村合併研究会」と「津軽南地域市町村合併協議会」（任意の合併協議会）を経て、浪岡町と板柳町を除く12市町村による「津軽南地域市町村合併協議会」（法定の合併協議会）が設置（H15.11.7）され、合併協議が進められたが、H16.7.31付けで合併協議会が解散。

その後、平賀町、尾上町及び碓ヶ関村の3町村による「平賀・尾上・碓ヶ関合併協議会」（法定の合併協議会）が設置され（H16.10.29）、合併に伴う市制施行により「平川市」が誕生（H18.1.1）。

## 【合併の必要性及び組合せの考え方】

田舎館村は、人口1万未満の小規模村で、人口の減少や少子高齢化が著しく、今後、社会経済情勢の変化等に的確に対応し、行政サービスの維持向上を図っていくためには、合併を契機として行財政基盤の充実を図ることが必要である。

平川市と田舎館村は、歴史的、文化的なつながりや基幹産業である農業を通じた地域の一体性が強いことから、今後、合併を契機として、農業・農村の広域的整備等による地域振興が期待できる。

## 【地域の発展方向】

伝統文化や豊かな自然と調和した潤いのある田園都市環境の整備  
基幹産業である農業の振興による食料供給基地としての機能の充実・強化  
地場産業の活性化や広域観光の振興などの多様な産業振興

## 【期待される合併効果】

行政経費の削減と行財政基盤の強化  
公共施設の効率的配置や広域的利用等による住民の利便性の向上  
米、りんご、野菜のブランド化等による「売れる農産物」づくりや高付加価値型の農産加工の推進  
自然や田園風景、歴史的遺産、温泉等の観光資源を組み合わせた体験型・滞在型の広域観光の推進  
地域間交流の促進や地域コミュニティ活動の活発化